

## 第2回つくば市未来構想等審議会 会議次第

日時 平成30年10月23日(火)  
午後2時00分～午後4時00分  
場所 市役所5階庁議室

### 次 第

#### 1 開会

#### 2 報告

- (1) 第1回審議会の開催報告
- (2) 市民ワークショップの開催概要
- (3) 土地利用構想専門部会の開催概要
- (4) 2030年の日本や世界の未来予測

#### 3 議事

- (1) 職員ワーキングチーム等における未来像抽出のプロセスについて
- (2) 審議会委員と職員ワーキングチームとの意見交換会の実施について
- (3) 市民、高校生・大学生意識調査の実施概要及び設問内容について
- (4) 人口の将来推計の実施方針について
- (5) つくば市が今後力を入れるべき分野《意見交換(前回欠席者)》

#### 4 閉会

### 配付資料

資料1	第1回つくば市未来構想等審議会 委員意見と対応方針
資料2	つくば市未来構想等改定のための市民ワークショップの開催概要
資料3	土地利用構想専門部会の開催概要
資料4	2030年の日本や世界
資料5	職員ワーキングチーム等における未来像抽出のプロセス
資料6	審議会委員と職員ワーキングチームとの意見交換会の実施
資料7-1	市民・高校生・大学生アンケート調査の実施概要
資料7-2	つくば市未来構想に関する市民アンケート調査
資料7-3	高校生アンケート説明チラシ
資料7-4	つくば市未来構想に関する高校生・大学生アンケート調査
資料8	人口の将来推計の実施方針について



## 平成 30 年度 第 1 回つくば市未来構想等審議会 委員意見と対応方針

日時 : 平成 30 年 8 月 30 日 (木) 14:00~16:00

場所 : つくば市役所消防本部 3 階 多目的ホール

出席者 : つくば市未来構想等審議会委員 25 名 事務局 8 名

## 1 未来構想等の位置づけと改定方針について

NO.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
1	山海委員	未来像をバックキャストの方法で決めるのはよい。今後つくば市の未来像を検討していく中で、一つのイメージを共有していく必要がある。そのため、イメージがわかるものを今後準備していきたいと思う。	■未来像を作るにあたって、現在若手職員を中心に構成されたワーキングチームで意見を抽出しているところである。今後第 2 回、第 3 回審議会でお示しし、委員の方からご意見をいただきたいと考えている。また、具体的な意見を収集するために、テーマに沿って議論をしていただけるような形で進めていきたいと考えている。(当日回答)	—
2	大島委員	未来のイメージですが、内閣府や文科省は、「2040 年を見据えた高等教育の将来像」という資料を配布している。2040 年は、今年生まれた子供が社会に出る年齢で、国は 2040 年を視野にいれている。つくば市の未来構想も、2040 年の未来像を視野に入れて、2030 年から現在までを具体的にバックキャスト、フォアキャストすべきではないか。(会議後意見)	■未来像の抽出に当たっては、20 年、30 年先を見据えた課題を抽出し、それらに対して戦略的にどのように取り組んでいくかという視点を取り入れる予定であることや、各省庁の策定した未来像・将来増等は調査を行っていることから、つくば市の未来像においても参考にしたい。(会議後回答)	—

網掛けマ  
スは会議  
開催後の  
意見

## 2 未来構想等策定の方法と工程について

NO.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
3	永井委員	2年ごとに行われている市民意識調査とはまた別に今回の未来構想で市民を対象としたアンケートを実施するというのか。また、次回の審議会は10月23日となっているが、その時にアンケート(案)が確認できるというのか。	■市民意識調査とはまた別に、今回の未来構想策定のためにアンケートを実施する。また、11月にアンケートを実施する予定であるが、次回の審議会の際にアンケートの案をご提示できればと思う。(当日回答)	次回審議会にてアンケート企画・調査票を配布予定
4	林委員	市民ワークショップについて審議会委員は参加を控えた方が良いのか。	■お時間があればご参加お願いしたい。(当日回答)	—
5	門脇委員	なぜ大学生ではなく、高校生を対象としたアンケート調査を実施するのか。	■過去に大学生を対象としたアンケートを実施した際は回収率が悪かった経緯があった。今回、市民アンケート調査において18歳以上の方を対象にすることで大学生を含む形をとることを想定している。また、以前行われた未来構想では高校2年生を対象としたアンケートが実施されており、過年度比較を行いたいと考えている。(当日回答)	大学生においても実施することとする。
6	大島委員	現在大学では紙のアンケートより、WEBフォームを活用したアンケートを実施しており、前よりも協力的にアンケートに回答してもらえるようになったと思われる。	■以前、大学にWEBアンケートをお願いしたことがあったが、断られた経緯があった。今回改めて大学生に対するアンケート調査を検討したい。(当日回答)	大学生においても実施することとする。
7	山海委員	WEBアンケートで授業の評価を聞く大学もあり、試験日にアンケート調査を設定することで一定のサンプルを集めることができると思わ		

NO.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
		れる。		
8	横田委員	必修科目がある大学 1 年生は、比較的回答を得ることができると思う。		
9	中嶋（信）委員	若い世代からの意見を多く取り入れるためアンケートを行うなら、すべて web で回答する形式にした方がよい。web での回答も Line を利用しないと見ない可能性が高いので注意。（会議後意見）	■若い世代、市民ともに WEB で回答してもらえるように設計したい。メーリングリスト等の活用を検討しているが、LINE についても利用が可能か調査したい。（会議後回答）	WEB 回答についても用意する。
10	大島委員	大学生や高校生のアンケートの件で、「住民票を移していない」という発言があるが、それほど重要なことなのか。例えば千代田区などは住民よりも仕事をしている人間（勤務先）が圧倒的に多いが、アンケートはとっている。 <p>グーグル等を使い、ウェブでアンケートに回答する（住民だけでなく、通勤、通学でつくば市に滞在する人をいれる）ことは可能ではないか。</p> <p>一方、高校生にアンケートしても効果的でないが事前レクチャーは、具体的にどのようにするか検討すべき。</p>	■大学生についてもアンケートの対象に加えるとともに、大学生、市民ともに WEB で回答してもらえるように設計したい。また、高校生にも答えやすい・興味を引くように、導入用の説明資料を作成したい。（会議後回答）	大学生においても実施し、WEB を取り入れることとする。

### 3 職員ワーキングチームについて

NO.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
11	山海委員	資料 P38 について、情報収集して見えてくるフォアキャストと、バックキャストがみ合うような議論になると	■未来像の策定にあたってバックキャストの手法を取り入れる予定であるが、現状の施	—

NO.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
		良い。バックキャストについては出口のイメージをはっきりとし、今何をすべきかという解決策を見出していければと思う。	策の課題や障壁等についてもきちんと調査を行い、フォアキャストの手法のいい所も取り入れていく予定である。(会議後回答)	
12	小玉委員	共有する未来像とその未来像を達成する解決策について、市民の要望に対して現状どれくらい達成されているかというような現状認識や、期待されているつくば市の未来像に対してどの程度応えられるかといった分析などの整理が必要だと思われる。	□コントロールできる部分とできない部分を分けて考えるとよい。(委員長) ■市民アンケートの設問において現状の施策の満足度と重要度を伺い、市民の期待にどの程度応えられているのかについて調査を行いたい。(会議後回答)	市民アンケートの設問に反映させる。
13	吉富委員	庁内各課による施策をふまえてアンケートを実施すると有効なアンケートの設計ができるのではないかと考える。 高校生に一時間程度レクチャーしてから、アンケートを依頼するなど考えられないか。	■市内の9校全校に直接説明を行うことは時間や労力的に難しいため、未来構想の趣旨等について分かりやすい形でA4一枚程度の資料を添付し、それをもとに回答してもらう方法を検討したい。(会議後回答)	説明用紙をもとにアンケートを実施する。
14	永井委員	アンケートについて、質問・意見内容がしっかりしていると回答が得られやすいと思う。 また、庁内WTは傍聴可能か。職員が活動している様子がみられるとよい。	■未来像の提案について抽出される内容について検討する。(当日回答) □庁内の意見を共有できる場を設けたいと思う。(副市長)	職員WTが審議会委員に報告を行う様な場を設ける。

#### 4 つくば市が今後力を入れるべき分野<意見交換>

NO.	発言者	質問・意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
15	大島委員	これから作る資料については今後西暦表記をお願いしたい。	■委嘱状等は行政文書であるため和暦を使用しているが、説明資料等は	西暦表記を基本とする。

NO.	発言者	質問・意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
			西暦を使用・併記したい。(当日回答)	
16	林委員	資料内の年表記は元号ではなく西暦を主とするよう要望が出ていたことに賛同し、今後の資料については過去資料の改訂が必要なもの等を除き原則を西暦としていただきたい。(会議後意見)	■委嘱状等は行政文書であるため和暦を使用しているが、説明資料等は西暦を使用・併記したい。(会議後回答)	西暦表記を基本とする。
17	中嶋(修)委員	今のつくば市は、8地区の地域に一体感がないように思える。持続的に新しい住民が住むまちになるように、段階的に住み続けられる地域になるような未来構想を検討していただきたい。 アンケートについて、多くの市民の方々に回答していただきたい。高校生のアンケートより、中学生アンケートの方が有効であるように思える。	■地区分けについては、分析等を行う上で地域ごとの特性を見るために便宜上用いているものであり、構想の段階ではまちとして一体感を醸成できる内容となるよう留意したい。(会議後回答) ■アンケートについては、これまでと比較の意味でも高校生・大学生を対象としたい。(会議後回答)	将来の進路や就職がより具体的になる高校生、大学生を対象として調査を行う。中学生にも参加してもらえる仕組みを検討する。
18	中嶋(修)委員	・まちづくり、開発計画(年次計画) ◎つくば市街区と周辺地区の一体化を図る ・働く世代への支援計画 ◎子育てへの支援…医療費の無料化 ・教育環境の充実 (会議後意見)	■未来像策定の際の参考とさせていただきたい。(会議後回答)	未来像策定の際に配慮する。
19	山海委員	都市部だけではなく、農村があるつくば市だからこそできる、まち全体を活かした未来像を築くことができればよいと思う。	■未来像策定の際の参考とさせていただきたい。(会議後回答)	未来像策定の際に配慮する。
20	北本委員	つくば市はアメリカのシリコンバレーに劣らないポテンシ	■まち・ひと・しごと創生と同様に、しごとがひと	未来像策定

NO.	発言者	質問・意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
		<p>ヤルを持っているまちであると考えている。つくば市の地場産業、あるいは新産業のきっかけに、好循環となるような未来像を考えてはいかがか。</p>	<p>を呼び、ひとがしごとを生む好循環となるよう、未来像策定の際のポイントとしたい。(会議後回答)</p>	<p>の際に配慮する。</p>
21	北本委員	<p>つくば市が今後力を入れるべき分野はイノベーションを意識した「産業振興分野」であると考えている。第一に、充実した施策を打つためにはある程度の税の投入が必要である。第二に、つくば市は日本で一番の、また世界でも指折りの「研究機関、大学等の知的人材」の集積があるが、イノベーションの源泉の一つは、既存の知と別の既存の知の新しい組み合わせにあると言われており、地元の意識の高い事業者と知的人材が融合することで、生産工程、流通などにおける生産性の飛躍的向上の可能性はある。</p> <p>第三に、今や地域の活性化に前向きに取り組んでいる都市では、やはり外からの知的人材を取り入れてイノベーションを起こす努力をしている。審議会や職員ワーキングチームにおいて、戦略に関する十分な議論が必要で、意識の高い事業者さんやイノベーター達の意見が参考になると思う。(会議後意見)</p>		
22	山海委員	<p>イノベーションという言葉キーワードにして、未来像の検討を行ってほしい。農業や交通を活かした新しい取り組みを行うことや教育分野</p>	<p>■イノベーションは当然最重要なキーワードとなると考えているため、未来像策定の際のポイントとしたい。(会議後</p>	<p>未来像策定の際に配慮する。</p>



NO.	発言者	質問・意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
		についても若いうちからチャレンジができるような社会の仕組みを作っていけると良い。	回答)	
23	山口委員	目指す未来像に対する手段ではなく、2030年の未来像を審議会で決めるべきではないのか。TXができて、時間的にも距離的にも東京に近くなった。東京にはない都市の魅力を見出していければと思う。	■未来像の提案について、審議会は案に関する審議を行う場であるが、職員WTと審議会委員が意見交換を行えるような場を設けたい。(会議後回答)	審議会委員の意見が十分に反映されるように配慮する。
24	中井委員	未来構想の中では子育てを楽しめるような、まちづくりを検討していただきたい。また、合計出生率について、「2」という数値を目指してもらいたい。資料やアンケート等について、全ての人が見やすいように作成して欲しい。	■未来を考える上で子育ては当然最も重要なキーワードとなると考えているため、未来像策定の際のポイントとしたい。(会議後回答) ■合計特殊出生率の2.1を目指すことについて、中長期的な視点で取り組むことが重要であるが、現在、2030年までに1.8、2040年までに2.1としている従来の目標を早めること等について検討したい。(会議後回答)	未来像策定の際に配慮する。
25	大島委員	社会に興味を持つ年代ということで、18歳以上の大学生や専門学生にアンケートを取ることには必要だと思う。外国人留学生が増えている社会的背景に併せて、市民WSに外国人を入れてみるのはどうか。	■専門学校を対象とする対象校が多くなりすぎるため、大学生を対象として加えたい。(会議後回答) ■留学生のみならず、外国人にも門戸は開いているため、参加をお待ちしたい。(会議後回答)	大学生においても実施することとする。
26	生田目委員	社会的背景として多様性を認めていかなければならない点を踏まえ、特別支援学校の方	■特別支援学校にもアンケートを依頼したい。(会議後回答)	特別支援学校にもアンケートを依

NO.	発言者	質問・意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
		<p>の意見を吸い上げてほしい。 また、未来像の達成に向けた条例づくりなどは考えられないか。例えば女性研究者への支援として育休や産休に関する条例があると良い。</p>	<p>■ 条例については未来像の策定と踏まえて検討したい。(会議後回答)</p>	<p>頼し、回答方法に配慮する。</p>
27	後藤委員	<p>アンケートに答えたくても答えられない方もいる。特別支援学校に通われている方へのアンケートについては保護者の方に回答していただけるようにするなど配慮してほしい。 障がい者が住みやすいまちを目指すと、子供からお年寄りまで誰もが住みやすい町となる。</p>	<p>■ 特別支援学校にもアンケートを依頼したい。保護者の方に御協力いただけるような形としたい。(会議後回答)</p>	<p>特別支援学校にもアンケートを依頼し、回答方法に配慮する。</p>
28	西委員	<p>この審議会で 2030 年のつくば市の未来構想の方向性を固めていくことが必要であると考える。一人ひとりが考えているつくば市の未来像を提案してもよいと思う。</p>	<p>■ 未来像の提案について、審議会は案に関する審議を行う場であるが、職員WTと審議会委員が意見交換を行えるような場を設けたい。(会議後回答)</p>	<p>審議会委員の意見が十分に反映されるように配慮する。</p>
29	宇津野委員	<p>つくば市の中心部と周辺部が一体的に発達することで、定住促進ができる。戦略プランでは、中心市街地問題、地域格差の問題を含め、工業団地や物流拠点、駐車場の関係などについても議論し、一体的な産業システムを検討する必要があるように思える。</p>	<p>■ 中心市街地の再生については喫緊の課題であるため、未来像や施策を策定する上で重要なポイントになると考えている。(会議後回答)</p>	<p>未来像策定の際に配慮する。</p>
30	大島委員	<p>2030 年までに確実につくば駅周辺の活性化が必要である。(会議後意見)</p>		
31	高谷委員	<p>東京の真似をせず政府に頼らない、つくば独自のまちづくりを提案していきたい。</p>	<p>■ 社会的な課題やつくば市の地域特性についてしっかりと調査を行い、</p>	<p>■ 社会的な課題やつくば市の地域</p>

NO.	発言者	質問・意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
			つくば市の独自性について考える基礎としたい。(会議後回答)	特性について調査する。
32	横田委員	地域への密着という観点で、市内の大学生の就職先としてつくば市で働く選択肢があればいいと思う。	■まち・ひと・しごと創生と同様に、しごとがひとを呼び、ひとがしごとを生む好循環となるよう、未来像策定の際のポイントとしたい。(会議後回答)	未来像策定の際に配慮する。
33	林委員	つくば市民は普段、先端技術に触れる機会がないため先端技術を集約化して触れられる機会があるとよい。つくば市ならではのカリキュラムの検討や子育てにやさしいまちづくりを検討してもらいたい。	■つくば市内の研究機関等が有する科学技術を市民生活で実感できるようにすることは重要なキーワードとなると考えているため、未来像策定の際のポイントとしたい。(会議後回答)	未来像策定の際に配慮する。
34	神谷委員	アンケートについて、社会的にも高齢者の割合が増える中で、高齢者の方の回答を増やすために、ユニバーサルデザインを意識していただきたいと考えている。	■全てのひとが見やすい、答えやすい内容となるように十分配慮したい。(会議後回答)	アンケート・資料作成の際に配慮する。
35	中嶋(信)委員	つくば市を持続可能な街にするには、働き盛りや子育て世代が集まり、世代交代しながら住み続けたい街にする必要がある。そのためには保育と教育をさらに充実させる必要がある。 教育日本一を目指すつくば市であるが、つくば市の教育レベルが高いのは、保護者の教育費への支出が他の都市に比べて突出して多いからであって、教育インフラの整備は隣の市と比べてまだ見劣りする。教育インフラの整備は最	■保育と教育の環境整備については喫緊の課題であるため、未来像や施策を策定する上で重要なポイントになると考えている。(会議後回答)	未来像策定の際に配慮する。

NO.	発言者	質問・意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
		優先で取り組むべき課題である。別途税を導入しても進めるべきだと考える。(会議後意見)		
36	小玉委員	市制 30 年も過ぎ、一体感のあるつくば市を自覚するために、象徴的なものとして中央博物館（テーマ：つくばの自然と歴史・生活）のような拠点施設が欲しい。ハードものではなく既存の施設を活用するなど工夫が必要。(会議後意見)	■ 未来像の抽出やその後の戦略プラン策定時の重点プロジェクトの組み立ての際に参考とさせていただきたい。(会議後回答)	未来像策定の際に配慮する。
37	小玉委員	特に小・中・高校生外国人が日本語を学ぶ条件を確実に保証したい。成人は民間の日本語学校で実現できるが学齢期の自動・生徒には公的支援が必要。(会議後意見)	■ 未来像の抽出やその後の戦略プラン策定時の重点プロジェクトの組み立ての際に参考とさせていただきたい。(会議後回答)	未来像策定の際に配慮する。
38	小玉委員	「国際都市つくば」が市民にとっても身近なものになるような常設展示施設を設けてはどうか。友好都市であるテジョン市役所の施設が参考になるが、姉妹都市を紹介する展示（パネルだけでなく物産などもふくめ）、140 カ国に及ぶ市内在留外国人の情報、G7 や G20 など市内で開催された国際会議などの常設展示があるとよい。(会議後意見)	■ 未来像の抽出やその後の戦略プラン策定時の重点プロジェクトの組み立ての際に参考とさせていただきたい。(会議後回答)	未来像策定の際に配慮する。

## 5 その他

NO.	発言者	質問・意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
39	森委員	山海委員が発言されているように 10 年後の出口のイメージ作りと共有が必要と考えられる。バックキャストはその出口と現状との分析のギャッ	■ 未来像策定の際には、バックキャスト、フォアキャストの両方の手法のいい所を用いて、関係者間の十分	未来像策定の際に配慮する。

NO.	発言者	質問・意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
		<p>プを克服するためにどのような手段や手立てを用意するかを関係者で討議することになるかと思う。市民の意見は重要だが、後付けで活用するのが現実的かと思う。</p> <p>10年後の出口イメージに関してはつくば市から提示することが望ましいと思う。多数決ではなく、施政者（組織）の思い（ビジョン？）で決めることが必要。（会議後意見）</p>	<p>な討議の上で決められるようにしたい。そのために、市民や委員を含め多くの方の御意見を聴取できるように工夫したい。（会議後回答）</p>	
40	北本委員	<p>未来構想は、ある程度総花的にならざるを得ないかもしれないが、力を入れる分野や、ワクワク感が出るようなものを前面に出すなど、構成上の工夫が必要と思う。</p> <p>例えば、冒頭にキャッチフレーズを設け、これに関連する主要分野のエッセンスを第一部とし、その後第二部として全分野を網羅するような構成も考えられるのではないか。（会議後意見）</p>	<p>■御指摘のようにある程度網羅的にならざるを得ないところもあるが、重点的な施策やプロジェクト等を明示し、強弱をつけた構成となるように工夫したい。（会議後回答）</p>	<p>未来像策定や戦略プラン策定の際に配慮する。</p>



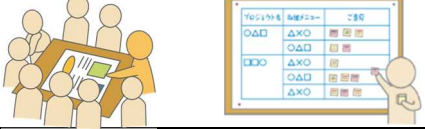
## つくば市未来構想等改定のための市民ワークショップの開催概要

## 1 ワークショップ全体概要

## (1) 開催目的

つくば市未来構想の策定にあたり「住民が考えるつくば市の未来像」についてワークショップ方式で検討することを目的とする。未来像の抽出は、段階を踏んで行うこととし、平成 30 年 9 月 30 日に実施予定であった第 1 回ワークショップが台風 24 号の影響で中止となったことから、当初予定していた 3 回から変更し、平成 30 年度中に 2 回実施する。

## 実施変更案

当初案	修正案
<p>第 1 回（9 月 30 日（日）10-12 時） つくば市のいいところ、残念なところ 概要：つくば市の特性・課題について情報提供の後、KJ 法により意見収集・整理 ○市の内部要因について整理、分析 ・つくば市の市勢・特性についての意見出し ・つくば市の課題についての意見出し</p>	<p>第 1 回（10 月 28 日（日）10-12 時） つくば市のいいところ、残念なところ、今後起きそうなこと 概要：つくば市の特性・課題について情報提供の後、KJ 法により意見収集・整理 ○市の内部要因について整理、分析及び外部要因の情報共有 ・つくば市の市勢・特性についての意見出し ・つくば市の課題についての意見出し ・将来の社会予測について情報共有</p>
<p>第 2 回（10 月 28 日（日）10-12 時） つくば市の未来（2030 年）に実現して欲しいこと 概要：将来社会状況を情報提供の後、市の成長戦略、進むべき方向性を SWOT 分析 ○市を取り巻く将来外部要因をふまえて成長戦略を分析 ・将来の社会予測について情報共有 ・取り組むべき内容等について意見出し</p>	 <p>第 2 回（12 月 2 日（日）10-12 時） つくば市の未来（2030 年）に実現して欲しいこと、<u>今必要なこと</u> 概要：将来社会状況を情報提供の後、市の成長戦略、進むべき方向性を SWOT 分析 ○市を取り巻く将来外部要因をふまえて成長戦略を分析し、<u>未来像において住民ができる取り組みについて意見交換</u> ・取り組むべき内容等について意見出し ・未来像実現に向けて必要な取り組みについて ・住民が具体的に取るべきことについて</p>
<p>第 3 回（12 月 2 日（日）10-12 時） 未来（2030 年）に向けて今必要なこと、未来像 概要：これまでの議論から未来像を複数提案し住民目線での市の未来像を合意 ○未来像を提示し、住民ができる取り組みについて意見交換 ・未来像実現に向けて必要な取り組みについて ・住民が具体的に取るべきことについて</p>	<p>第 2 回（12 月 2 日（日）10-12 時） つくば市の未来（2030 年）に実現して欲しいこと、<u>今必要なこと</u> 概要：将来社会状況を情報提供の後、市の成長戦略、進むべき方向性を SWOT 分析 ○市を取り巻く将来外部要因をふまえて成長戦略を分析し、<u>未来像において住民ができる取り組みについて意見交換</u> ・取り組むべき内容等について意見出し ・未来像実現に向けて必要な取り組みについて ・住民が具体的に取るべきことについて</p>

## (2) 実施方法

各グループ6～7名、5グループ程度を想定する。こども連れの方でも参加可能とする（こどもは原則自分で面倒を見てもらう）。

各ワークショップ及び説明会のねらい、内容、進め方を掲載した進行計画を作成し、実施後にA4サイズ2ページ相当のニュースレターを作成する。（ニュースレターは原則として次回会議の冒頭でふりかえりに用いる。

## ニュースレター（イメージ）

### 矢作川流域圏懇談会通信

山部会編 vol.3

発行日：平成25年8月●日  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

---

**◆第4回山の地域部会・第11回山部会WGを開催しました！**

8月17日（土曜日）に第4回山の地域部会・第11回山部会WGが開催されました。  
今回のWGでは、山部会で取り組んでいる4つのことのうち、山村再生担い手づくり事業集と矢作川流域圏木づくりガイドラインの2つについて話し合いました。

日時：平成25年8月17日（土）9:00～12:00  
場所：豊田市役所 定助支所 2階 第2会議室  
参加者：15名（事務局含む）

---

**◆主な会議内容**

**1. 第4回山の地域部会にて、役員の変更を行いました。**

第4回山の地域部会にて、矢作川流域圏懇談会規約に基づき、役員の変更を行いました。  
座長に東京大学大学院の藤治一 一部会長に 副座長に 岐阜県立森林文化アカデミーの丹羽謙均非常勤講師が改選されました。

---

**2. 山村再生担い手づくり事業集について**

山村再生担い手づくり事業集の作成に向け、山村の担い手のいる現場に行き、直接、現場の人たちの苦悩や喜び・課題に触れることを目的とした調査を行います。  
今回は、取材調査の募集方法や具体的なスケジュールについて話し合いました。  
10月の取材調査開始に向けて、種々の準備が進んでいます。

---

**3. 矢作川流域圏木づくりガイドラインについて**

今回は「木づくりガイドラインははじめの一歩」として、参加者の方々が「森や木を前にして、これではいけないのでは、もっとこうなればなあ、こんな風になればいいな」と思う風について意見を話し合いました。  
身近にある木の暮らしをイメージしながら、流域の木材利用や木工製品の活用方法について、多くの意見が出されました。

---

**◆お問合せ◆**  
矢作川流域圏懇談会事務局  
〒441-8149 豊田県豊田市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤  
TEL: 0532-481017 / FAX: 0532-4818100  
\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagisawa@inet.or.jp) までお送りください。

**◆話し合いでの主な意見**（※意見 → 回答）

**●山村再生担い手づくり事業集について**  
山村再生担い手づくり事業集の作成にあたり、取材調査の実地にあたっての具体的なスケジュールと取材先への協力依頼文、取材者募集のメール文面の内容について話し合いました。会議の中で出た意見を反映し、10月の調査に向けて準備を進めます。  
**出た意見**  
●取材者募集の文面には、取材先の選定は「自発的で暖かい活動関係」を対象としてほしいことを付け加える。（城田）  
●取材の申し込み後、参加者の希望に沿うように取材先とのマッチングを行うが、必ずしも希望通りにならないことを記載しておく。（丹羽）

**2013年度スケジュール案**  
今年度のスケジュールを以下のように予定しています。

8月17日（日）	山部会WGでの作業
～8月25日（日）	取材先の連絡先・連絡方法確認
～9月6日（金）	取材先への連絡と取材の可否確認
9月7日（土）～9月27日（金）	取材者の募集
10月1日（火）～10月14日（火）	取材先と取材者のマッチング 取材先との連絡（取材方法と取材先の通知）
10月15日（水）～12月28日（土）	アポイントメント、聞き取り、レポート提出
1月6日（月）～2月28日（金）	2012年度山村再生担い手づくり事業集作成、交通費精算

**参加者の募集について**

- 山川海との連携が大切。山部会のメンバー以外にも川と海からの参加があるとよい。（丹羽）
- メールによる呼びかけに加え、川部会、海部会が開催する会に説明へいき案内することがよい。（城田）
- 8月26日の川部会と9月9日の海部会に出向き、周知して行く。（丹羽）
- 8月21日の市民会議に出向き、周知して行く。（丹羽）

**●矢作川流域圏木づくりガイドラインについて**  
木づくりガイドラインの作成のはじめの一歩として、「森や木を前にして話し合いたいので、もっと準備は必要、こんな風になればいいのだ」と感じることにして、プレーストームニング形式で意見を話し合いました。自由発言はできません。

**【木づくりガイドラインについて】**

- 商業集、木づくりガイドラインの作成は形式から考えてしまわず、今のやり方は、消費者目線・利用者目線で考えられる。（丹羽）
- 矢作川流域に住んでいることの意味は、流域市民の暮らしの質が上がるというところから。（相川）
- ガイドラインはみんながわかるものがないとダメ。書店でマイサイズが合ったシートを売るなども面白い。（城田）
- 立っている木に親しめる機会があるとよい。森を明るく、歩いて楽しむ環境でできればよい。（丹羽）
- 木づくりガイドラインと木づくりガイドラインはリンクしていいといい。（城田）
- 工務店のプレーストームニングを通じて意見交換などができるとおもしろい。（城田）

**【木材利用の推進について】**

- 道の工務店から依頼があり、木や森に関することを子供たちに伝えるイベントをした。子供は将来性があるので、木の良さをわかってもらえるとよい。木でつくられた小学校などを通じてPRしたいが、森林組合だけで行はな困難。（松井）
- 人間のライフサイクルを考えると、どの時代も同時に同じものを購入しており、木材も今後、チャンスがある。（相川）
- 木の新しいプロジェクトに挑戦し、ちょっとした木工が可能となる機器を調べておけばよい。（南木）
- ファーストウッドで地域振興している上飯田の街がある。（原田）
- 机、ランドセルなど成長に応じて木を用いた製品を使ってもらう手もある。（丹羽）
- 北海道のエコビルでは、自分で使うものを自分たちで作る。生活の中にあるものは意外と自分でできる。（城田）
- 普通の人ができるものを自分で入れるべきだし、そのようなものの中には費用を生み出すのはたくさんある。（城田）
- 日曜大工は道具をそろえればその実になればできる。（丹羽）
- リフォームへの補助金（城田）
- 豊田森林組合では、工具のものを貸し出すことはないが、組合で実施する体験学習に参加した方には、使ってもらっている。講座が終わった人がまた使いたいといってくることもある。（松井）

---

**今後のスケジュール（予定）**

次回のWGを9月13日（土）に元気村にて開催します。

議題毎の実施概要

当日話し合いでの主な意見

プレーストームニング形式で意見交換



## 土地利用構想専門部会の開催概要

### 1 専門部会とは

専門部会とは、つくば市未来構想等策定委員会（以下、庁内策定委員会という。）に設置されるもので、専門部会は、未来構想等の立案作業のうち専門的な事項について調査、研究、調整又は協議をするものである。つくば市未来構想等策定委員会設置規則に基づき、つくば市土地利用構想改定専門部会の設置を行っている。

### 2 土地利用構想改定の基本方針

現未来構想の土地利用構想の内容を基本的に踏襲しつつ、新たな未来像を策定と合わせ、5年前からの情勢変化を踏まえた土地利用構想の修正を行う。土地利用構想の計画期間についても、前回未来構想を踏襲し、2050年とする。

### 3 専門部会の開催概要

おおよそ2ヶ月に1回程度開催し、年度末に未来構想素案へ反映できるように開催する。

回数	日時	開催概要
第1回	9月18日（火） 15時00分～16時30分	基礎調査内容の報告、改定に関する意見集約
第2回	11月中旬で調整中	土地利用構想改定（案）・地区名称の提示
第3回	1月中旬で調整中	土地利用構想改定（案）・地区名称の調整
第4回	3月上旬で調整中	未来構想素案への反映

つくば市土地利用構想改定専門部会の構成課等一覧

NO.	部課等名	備考
1	市長公室危機管理課	
2	政策イノベーション部企画経営課	部会長
3	市民部スポーツ振興課	
4	市民部文化芸術課	
5	経済部農業政策課	
6	経済部産業振興課	
7	経済部観光推進課	
8	都市計画部都市計画課	
9	都市計画部公有地利活用推進課	
10	都市計画部市街地振興課	副部会長
11	都市計画部学園地区市街地振興室	
12	都市計画部周辺市街地振興室	副部会長
13	都市計画部開発指導課	
14	都市計画部総合交通政策課	
15	建設部公園・施設課	
16	消防本部消防総務課	

# 2030年の日本や世界の未来予測

2030年の日本と世界

## 次期未来構想の計画期間中における社会像

1. 未来予測の基本的な考え方と方法
2. 既存資料による分野別未来予測一覧
3. 直近で普及が進むとされる新技術
4. 2030年の社会（現在の行政運営に近いもの）

以上の4項目について、次の視点から取り上げる。

- ◆ 既往文献
- ◆ 導入事例
- ◆ 行政運営への適用

# 未来予測の基本的な考え方

未来予測は、既往の文献や白書により整理。  
 例えば、未来年表（博報堂生活総合研究所）、NRI未来年表（野村総研）、未来年表（日経BP総研）ほか、情報通信白書（ICTの未来年表）、総務省、2050年における国土交通分野の未来予想図（国土交通省）などがある。



## 整理結果にみる主な趨勢

- 2030年の日本や世界等の状況に関する各種文献や経済誌の整理では、**地球環境問題の本格化**や**教育面での海外志向の浸透**、行政組織の広域化などが予想されている。
- また、ITや各種ロボットの開発をはじめとした**人工知能の普及**や**生活サポート機器の発達**等がある。さらに、我が国においては、増加する高齢者への対応として、介護・医療システムの変化や介護、社会保障面での変化が生じている。
- 人口減少下に課題とされた結婚・出産・子育てについては、未婚者の増加が予測されているほか、**生涯孤立することによる社会問題が顕在化**するなどが予測されている。
- 核家族化が収束することが予測される中、**住宅ストックのあり方**についても現在とは異なるシステムが形成されることも予測されている。

# 既存資料による分野別未来予測一覧（別紙で拡大版を準備）

【参考】分野別未来予測

分野	トピックス
環境	地球温暖化による洪水被害を軽減するため、住居の移転や浸水保険制度の創設が必要になる(平均気温の1-2度上昇を假定)
	この年までにエネルギー利用率、エネルギー自給率、化石燃料依存率の3つを50%にする社会モデルの実現が必要になる 貧困、飢餓、自然保護などを柱とする国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」が、この年まで17分野の目標と169項目の達成基準に取り組み(2016-30年) 物質、エネルギー、水がコミュニティ単位で高効率に活用される循環型社会実現
教育	人口1000人あたりの大学院在学者数が8人になる(2004年は1.91人) 外国で勉強する海外留学生の数が倍増する
	幼稚園の需要が減り続け、このころ児童数100万人を割り込む 政府が国内すべての小中高校に無線LAN(Wi-Fi)を導入
行政	道州制の導入を目指す大阪府が、市町村の連携を中核市級に高める
インフラ・技術	道路や港湾などの社会資本が高齢化し、施設の維持コストが10兆円を超える
	気象、海洋、環境、生態系、伝染病、経済、人の動きなどを全地球的にシミュレーションし、予測する危機管理システムが実用化する
	未知の危機に対応するための環境、生態系、伝染病、経済、人の動きなどの総合的で全地球的なシミュレーション予測システムが実現する
	「インフラ長寿命化基本計画」に取り組む政府が、インフラの老朽化による事故をゼロにする
介護	人間が脳の知識をクラウド化したサイボーグ(ロボットとのハイブリッド)になる
	ビッグデータによる地震発生シミュレーションが実現する(2025-30年)
	社会数理モデルによるシミュレーションを用いて、政策の意志決定を支援するシステムが実用化する(2025-30年)
	サービスロボットが、一家に1台普及する
婚姻	全国の水道の利用量が、2000年比で約2割減少する(2000年はピーク時)
	介護保険制度の改革に関する経済同友会の提言が実現し、この年の介護費用が約17.7兆円、給付費は約15兆円になる
	親族の介護を受けられない高齢者が、この年までに47万人孤立死する(高齢者介護が改善しない場合)
	ベッドから車いすやトイレへの移動を助ける介護ロボットが普及 一般家庭で介護、家事などを支援するロボットが実用化
社会保障	50代、60代の中高年男性の、ほぼ4人に1人が未婚になる
	50代女性の5人に1人が未婚になる
	5人に1人の女性が生涯未婚で過ごし、貧困女性が増加する
	50歳までに結婚経験のないひとの割合「生涯未婚率」が男性3割、女性2割を超える
住まい	厚生年金の支給開始年齢が男女ともに65歳になる
	老人と若者の世代間競争が若者の社会保障革命を誘発。このころ老人を見捨てる「若者の春」がおとずれ
	人生の最期のときに星場所をなくすひとが国内で年間47万人に達する(無縁死問題)
	日本の社会保障給付費が、170兆円程度に膨らむ(約50兆円増) 後期高齢者(75歳以上)の医療費が、21兆円に膨らむ(現状比で約1.5倍) 脳波で意思を判断し、自動走行する「ロボット車いす」 高齢者の外出を促すアシストネットワークロボットが実用化 社会に参加できない人の社会参加を可能にする遠隔操作型ヒューマノイドロボット技術が実用化

【参考】分野別未来予測

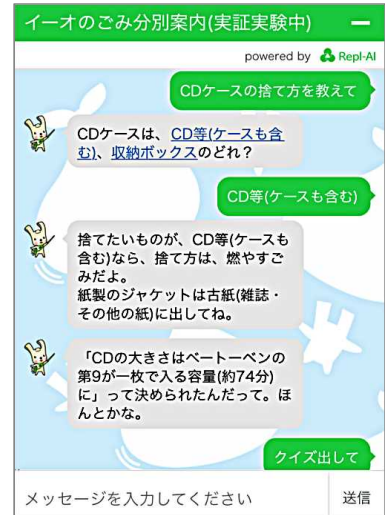
分野	トピックス
環境	地球温暖化による洪水被害を軽減するため、住居の移転や浸水保険制度の創設が必要になる(平均気温の1-2度上昇を仮定)
	この年までにエネルギー利用効率、エネルギー自給率、化石燃料依存率の3つを50%にする社会モデルの実現が必要になる
	貧困、飢餓、自然保護などを柱とする国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」が、この年まで17分野の目標と169項目の達成基準に取り組む(2016-30年)
	物質、エネルギー、水がコミュニティ単位で高効率に活用される循環型社会実現
教育	人口1000人あたりの大学院在学者数が8人になる(2004年は1.91人)
	外国で勉強する海外留学生の数が倍増する
	幼稚園の需要が減り続け、このころ児童数100万人を割り込む
	政府が国内すべての小中高校に無線LAN(Wi-Fi)を導入
インフラ ・ 技術	道路や港湾などの社会資本が高齢化し、施設の維持コストが10兆円を超える
	気象、海洋、環境、生態系、伝染病、経済、人の動きなどを全地球的にシミュレーションし、予測する危機管理システムが実用化する
	未知の危機に対応するための環境、生態系、伝染病、経済、人の動きなどの総合的で全地球的なシミュレーション予測システムが実現する
	「インフラ長寿命化基本計画」に取り組む政府が、インフラの老朽化による事故をゼロにする
	人間が脳の知識をクラウド化したサイボーグ(ロボットとのハイブリッド)になる
	ビッグデータによる地震発生シミュレーションが実現する(2025-30年)
	社会数理モデルによるシミュレーションを用いて、政策の意志決定を支援するシステムが実用化する(2025-30年)
サービスロボットが、一家に1台普及する	
介護	全国の水道の利用量が、2000年比で約2割減少する(2000年はピーク時)
	介護保険制度の改革に関する経済同友会の提言が実現し、この年の介護費用が約17.7兆円、給付費は約15兆円になる
	親族の介護を受けられない高齢者が、この年までに47万人孤独死する(高齢者介護が改善しない場合)
	ベッドから車いすやトイレへの移動を助ける介護ロボットが普及
婚姻	一般家庭で介護、家事などを支援するロボットが実用化
	50代、60代の中高年男性の、ほぼ4人に1人が未婚になる
	50代女性の5人に1人が未婚になる
	5人に1人の女性が生涯未婚で過ごし、貧困女性が増加する

分野	トピックス
	50歳までに結婚経験のないひとの割合「生涯未婚率」が男性3割、女性2割を超える
社会 保障	厚生年金の支給開始年齢が男女ともに65歳になる
	老人と若者の世代間競争が若者の社会保障革命を誘発。このころ老人を見捨てる「若者の春」がおとずれる
	人生の最期のときに居場所をなくすひとが国内で年間47万人に達する(無縁死問題)
	日本の社会保障給付費が、170兆円程度に膨らむ(約50兆円増)
	後期高齢者(75歳以上)の医療費が、21兆円に膨らむ(現状比で約1.5倍)
	脳波で意思を判断し、自動走行する「ロボット車いす」
	高齢者の外出を促すアシストネットワークロボットが実用化
	社会に参加できない人の社会参加を可能にする遠隔操作型ヒューマノイドロボット技術が実用化
住まい	国内の65歳以上の高齢者人口が3477万人(全人口の3割)に達し、終身建物賃貸借制度への関心が高まる
	都市と田舎の「2地域居住」希望者が、全国で1000万人に達する
	全世帯に占める核家族の割合が22%にさがる
	食材、日用品を自動宅配するサービスが実現
	このころ(2020-25)人工知能を搭載したインテリジェント住宅が登場、住宅と会話する時代へ
労働 ・ 産業	若者や女性を労働市場から疎外したまま、日本の労働力人口が5597万人に減少。経済成長率が0.6%に落ち込む
	雇用対策、少子化対策が後手にまわり、日本の労働力人口が6109万人に縮小する(年平均21万人減)
	仕事か子育てかの二者択一、増える非正規労働者、長時間労働を是正する政府の政策により、この年以降の急速な人口減少に歯止めがかかる
	国内の就業者数が5460万人に減少する(2010年比で840万人減)
	産業の空洞化が進み、国内製造業の就業者数が790万人に減少する(2010年は1060万人)
	労働時間が週15時間でことたりようになる
	コンビニエンスストアの店頭商品の情報を、スマートフォンで15カ国語表示するサービスが始まる
	製造業で、自動化技術を活用した無人工場が拡大する
	作物や樹木の成長を制御する技術が確立
	自動走行車が完全自動で走行
	人工知能が人間と自然な会話ができるようになる

# 直近で普及が進むとされる新技術

## 《人工知能》

- 人工知能の技術進展がめざましく、例えば、既に導入されている事例として、チャットボットがある。
- チャットボットは、顧客（市民）からの良くある質問に自動で回答（横浜市、ごみ、イーオのごみ分別案内）するもので人工知能技術の一部とされ、既に導入が進んでいる。
- 関連して、処理代行型チャットボット（ヤマト運輸、チャットボットをLINEに組み込み再配達対応）やコンシェルジュ＆取引実行型チャットボットや専門家チャットボットなどにより代用される。

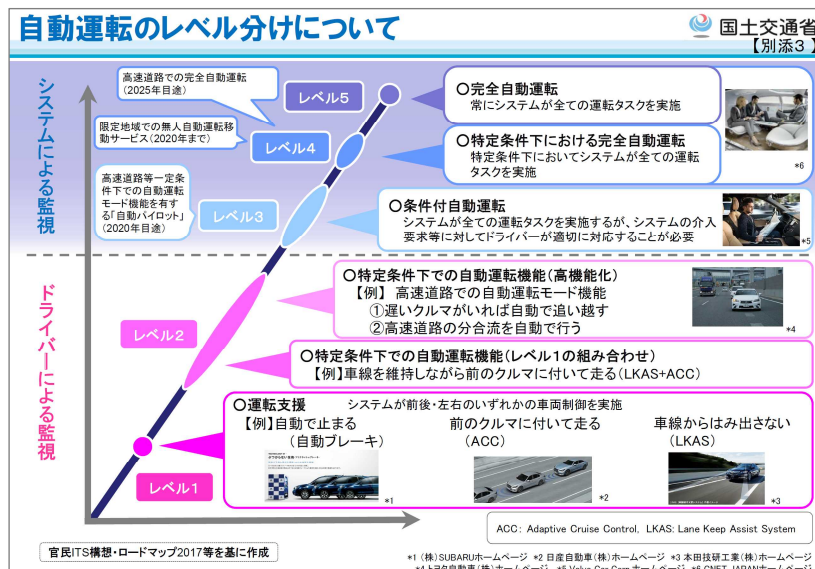


人工知能を活用した行政サービス	実施都市
AIスタッフ総合案内	掛川市
問合せ支援	川崎市（実証実験）
ゴミ分別案内（イーオ）	横浜市
戸籍業務に関する職員支援	大阪市
写真から道路の損傷状況を把握	室蘭市
認可保育施設の入所希望者を市内約300施設に割り振る実験	さいたま市
道路の損傷を自動診断	千葉市

# 直近で普及が進むとされる新技術

## 《自動運転》

- ヒト・モノの移動について、我が国が本格的な人口減少社会に直面し、生産年齢人口の減少が見込まれている。
- 地域における公共交通網維持、人手不足が深刻化している物流分野への対応、交通事故の削減等の課題解決のため、自動運転技術に期待がかかっている。



## 直近で普及が進むとされる新技術

### 《自動運転の実験等の実施例》

実施主体	内容
内閣府	<ul style="list-style-type: none"> <li>2017年10月から大規模実証実験を開始。国内外の自動車メーカー等が参加し、ダイナミックマップなどの実験を2019年3月にかけて行う。</li> <li>2017年11月、沖縄県の比較的交通量の多い都市部にて、準天頂衛星等を活用した自動運転バスを用いた実証実験を行った</li> </ul>
東京大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>2017年5月、柏キャンパスに研究開発施設を移転し、SBドライブ、先進モビリティ、柏ITS推進協議会等との産官学連携を加速させ、研究開発に取り組んでいる。</li> </ul>
国土交通省	<ul style="list-style-type: none"> <li>2017年9月国土交通省は高齢化が進行する中山間地域において、「道の駅」等を拠点とした自動運転サービスの実証実験を開始。</li> </ul>
愛知県	<ul style="list-style-type: none"> <li>産官学から構成される「あいち自動運転推進コンソーシアム」を立上げ、自動運転の社会実装を目指している。</li> <li>2017年10月、刈谷市にて閉鎖空間での遠隔型実証実験を実施。]</li> </ul>
DeNA	<ul style="list-style-type: none"> <li>EasyMil社と共同で、2019年のサービス開始に向けた完全自動運転によるラストマイルサービスの実証実験を各地で実施。</li> <li>自動運転物流サービスを目指す「ロボネコヤマト」プロジェクトを実施</li> </ul>
SBドライブ・先進モビリティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>SIP「自動走行システム」における沖縄でのバス自動運転実証実験等を受託。</li> <li>Navya社の自動運転シャトルバスを使用した実証実験を各地で実施。</li> </ul>

7

## 直近で普及が進むとされる新技術

### 《その他、関連技術》

#### IT／各種ロボットの開発、人工知能の普及

- 生活サポート機器の発達
- ウェアラブル端末（スマートウォッチによる健康状態分析）
- 瞬間オフライン翻訳機（イリーなど）

#### 介護・医療システムの高度化

- 医療情報ネットワークの形成と福祉機器の高度化
- 在宅医療・訪問介護の主流化

#### 地球環境保全をインフラ全体で実現するスマートシティ

- 住宅や商業施設をはじめとした建築物の低炭素化とスマート化
- まちなかの建物・土地の情報化が進み、効率的で効果的な利活用が実現
- 第5世代移動通信システム（5G）などの技術革新

8



## 2030年の社会（現在の行政運営に近いもの）

### I IT／各種ロボットによる生活サポート

- ITや機械化により子育てや家事サポート等により限られた労働力の生産性を向上するとともに少子化対策（出生数増加）
- 同時に、各種ロボットにより高齢者の生活をサポートし、高齢者も社会で活躍できる可能性を創出

### II 必要な時に介助が受けられるまち

- ICTを活用した医療情報ネットワークが充実し、地域包括ケアシステムが機能し始めて在宅医療・訪問介護が主流になる。
- 福祉機器の充実及び高度化と相まって介護度の維持改善が図られている。

### III 活用不可欠なICT（情報通信技術）

- 顔認証等による行政手続きの円滑化・セキュリティ強化
- 自宅に居ながらして物が届く・サービスを受けられる

### IV 環境に配慮したスマートシティの形成

- エネルギー効率の良いスマート・ウェルネス、サステイナブルシティが形成される
- 街全体に活気があり、高齢者や障がい者にとっても安全で便利な移動や生活ができる環境（エネルギー）に配慮したスマートシティを確立

### V 災害・事故のない安全・安心社会の構築

- 危険予知インフラの整備（大型災害、ゲリラ豪雨の予測）
- 犯罪防止

### VI まちの空間利用

- 空き家情報がシステム化され住み替えの中古住宅市場が形成
- 買い手のない案件は産官連携のエリアマネジメントによりコミュニティ施設として活用されたり、解体撤去して新規の高齢者施設等の用地や公園・市民農園として活用



## 職員ワーキングチーム等における未来像抽出のプロセス

## 1 全体概要

未来像抽出作業のSTEPごとの目標と成果について、以下の通り進めていくことを検討している。

表 未来像抽出作業の段階別成果

段階	実施	目標	成果
STEP 1 ・ 関連データの収集・分析 ・ 主要施策の現状把握	6月	○未来構想の内容及び策定に必要な内容等に関する共有化 <b>WT</b>  ○個別施策毎の現在の課題の原因探索、緊急度・重要度ごとの課題分類、施策上の中長期的な課題の抽出 <b>WT</b>	○中長期課題の整理（STEP2で活用）
	7月		
	8月		
	9月		
STEP 2 ・ 20年、30年先を見据えた課題を抽出（社会情勢、市民ワークショップ、SDGs等）	10月	○20～30年先に想定される個別施策別の課題整理 <b>事務局</b> ○施策別課題一覧の類型化 <b>事務局</b> ○職員SWOT分析（現在と将来のSWOT分析を実施） <b>WT</b> ○市民SWOTをふまえた施策推進上の戦略整理 <b>市民WS</b> ○有識者委員との意見交換 <b>WT</b>	○2030年の社会情勢をふまえた施策推進上の課題一覧表 ○施策推進上の共通課題（普遍的課題）と独自課題の明確化 ○市民・職員SWOT分析結果を踏まえた未来像の方向性検討
	11月		
	12月		
STEP 3 ・ 20年、30年先を見据えた主要論点と対応方針		○得られた課題に対する方針の検討（実現可能性や効果発現期間の共有） <b>WT</b>	○課題解決策の整理と阻害要因の抽出（論点整理）
STEP 4 ・ 2030年の未来像の抽出	1月	○2030年の未来像の具体化 <b>WT</b>	○未来像複数案の比較検討分析
	2月		
STEP 5 ・ 未来構想素案の策定	3月	○未来構想素案の作成 <b>WT・事務局</b>	○未来構想素案作成

## 2 STEP 2の進め方

### (1) 参加者

29 名を 3 グループに分けて「つくば市における持続可能性を探る～成長戦略と克服戦略の見える化～」をテーマに進める。

### (2) 方法

各回共に前半は情報提供、後半にテーブルワークを実施し職員によるSWOT分析を実施する。第1回でS(強み)、W(弱み)を洗い出し、第2回でO(機会)、T(脅威)を洗い出す。

他テーブルで出た意見の共有のため、閉会前に各グループから成果を発表頂く

#### ① 第1回：10月4日(木)9～11時

1. 開会
2. 個別施策意見交換会のふりかえり(報告)
3. つくば市勢・特性や類似都市比較の調査結果(報告)
4. つくば市の強みと弱みについての意見交換(テーブルワーク)
5. 閉会

**獲得目標**：つくば市の強み・弱みリスト

#### ② 第2回：10月10日(水)9～11時

1. 開会
2. 市民ワークショップの実施概要(報告)
3. 2030年の日本と世界の社会(報告)
4. 現在のつくば市をとりまく機会と脅威についての意見交換(テーブルワーク)
5. SWOT分析(現在)の実施(テーブルワーク)
6. 閉会

**獲得目標**：つくば市の成長戦略案、クロス分析(SWOT分析結果)

※SWOTを洗い出し、クロス分析を実施する。

会議後にメンバーが深度化したアイデアがある場合、これも受け付ける。

#### ③ 第3回：10月17日(水)9～11時

1. 開会
2. SWOT分析(現在)のふりかえり(報告)
3. 人口動向や将来人口分析(報告)
4. つくば市の成長戦略の進め方(SWOT)
5. 将来、想定されるつくば市の強みと弱みについての意見交換(テーブルワーク)

6. 閉会

**獲得目標**：つくば市を取り巻く将来状況

④ 第4回：10月24日（水）15～17時

1. 開会
2. SWOT分析（将来）の実施（テーブルワーク）
3. WT・ふりかえりシート（言い足りなかったことや進め方等）の記入
4. 発表・コメント・閉会

**獲得目標**：将来状況をふまえた成長戦略

### 3 SWOT分析の実施方法

SWOTは、強み (Strengths)、弱み (Weaknesses)、機会 (Opportunities)、脅威 (Threats) の4 カテゴリーで抽出し、環境変化に対応した経営資源等の最適活用を図る経営戦略策定方法の一つ。行財政運営を取り巻く環境による影響と、それに対する自都市の現状を分析しながら、自都市の成長機会を発見する。

#### (1) SWOT分析概説

SWOT分析のSWOTの各要素は、事業の外部環境と内部環境に分けられる。

外部環境とは、政治動向、規制、経済・景気、社会動向、技術動向、業界環境の変化や市民ニーズなど、自都市の努力で変えられない要因を指す。これら外部環境を分析して、機会 (O) と脅威 (T) を洗い出す。内部環境は、自都市で取り扱いが可能な要素であり、SWOT分析で具体的に言えば、強み (S) と弱み (W) にあたる。

#### (2) SWOT分析の例

未来構想で示す取り組みや重点的に取り組むべき内容は、選定までの過程が客観的で透明性を有することが重要であるため、市の特性 (内部要因) を強み・弱み、社会経済環境の変化 (外部要因) を機会・脅威のカテゴリーで分類し、それぞれの関係性から市の進むべき内容を戦略化する。



図 SWOT分析例

この10年間で期待される分野と内容として、SWOT分析の結果をもとに市が進むべき方向性を戦略化する。

### 成長戦略

●強み ★機会 ⇒ 強みで機会を活かす

良好な交通アクセス	×	人に優しいまち(温暖、人に優しい)	=	移住・定住の促進
道の駅の整備	×	豊かな営農環境	=	農業振興
伊豆半島との連携	×	豊富な地域資源	=	交流人口の拡大
ファルマバレープロジェクト	×	健康医療産業の集積	=	新成長産業の育成

### 克服戦略1

▲弱み ★機会 ⇒ 機会に乗じて弱みを克服する

就業先が少ない	×	良好な交通アクセス	=	雇用機会の増加
水害	×	内陸フロンティア	=	災害に強いまちづくり
農業担い手不足	×	道の駅整備	=	農業6次産業化の実現

### 克服戦略2

●強み ×脅威 ⇒ 強みで脅威を克服する

人に優しいまち	×	高齢者や母子家庭の増加	=	助け合いの社会づくり
都市構造	×	税収減少	=	効率的な都市経営

### 危機回避戦略

▲弱み ×脅威 ⇒ 弱みを克服して最悪の事態を回避する

幹線道路沿道の未活用	×	商業衰退	=	店舗誘致による賑わい創出
拠点の活性化不足	×	財政運営	=	集中投資に資する拠点の形成

### (3) 将来SWOT分析

今後の成長分野や元来からのつくば市の強み、今後の趨勢により予想される弱みについて、職員の想定により洗い出し、その時点での社会環境を機会・脅威として捉えることで、未来構想で掲げる目標の検証を行う。

将来のSWOT分析により未来構想で定める未来像について、客観性と実効性について議論（定性的根拠）し、さらなる成長戦略を検討する。

- ① 未来像で掲げる目標像の検証
- ② 定性的根拠を用いた目標像の客観化

将来の重要課題	S 将来の強み 研究・学術機能集積 TX 沿線の活性化 ジオパーク認定 など	W 将来の弱み 分散型地域構造の進行 対応すべき交通弱者の増加 など
O 2030 年に想定される 機会 AI 自動運転 など	S×O 成長戦略	W×O 克服戦略
T 2030 年に想定される 脅威 労働力激減 介護問題 税込減少 異常気象 など	S×T 克服戦略	W×T 撤退戦略



## 審議会委員と職員ワーキングチームとの意見交換会の実施について

### 1 意見交換会の開催概要

第1回未来構想等審議会において、庁内WTとの意見交換を希望する意見や、委員自身が未来像を提言したいといった意見が複数上がったことを受けて、職員ワーキングチームと審議会委員との意見交換会を実施いたします。

以下、審議会委員への募集内容

#### 意見交換会の概要

項目	内容	時間
委員情報提供	特定の分野について他者に先んじた知見を有する内容（例1：「Society5.0がつくばに与える影響」についての情報提供）または個人的な見解を有する内容（例2：○●について今後重要になると感じているのでテーマとして扱って欲しい）等	10～20分
意見交換	委員と直接意見交換またはワーキングチーム内でディスカッション	40～50分 計1時間

### 2 日程について

今後職員ワーキングチームの開催日時に合わせて実施したいと考えております。別紙3のスケジュール表をもとに、御都合のよい日時をお知らせください。

### 3 傍聴・意見交換参加について

意見交換会において、委員の方の傍聴も受け付ける予定です。詳細が決まり次第、再度連絡いたします。

### 4 その他

テーマや日時によって実施について事務局から調整をお願いする場合がございますので、予め御了承ください。

つくば市政策イノベーション部企画経営課 行

委員名： \_\_\_\_\_

1 意見交換のテーマ（概要を御記入ください）

(テーマ名)
(内容)

2 参考となる資料、HP、論文等（書籍名、HPアドレス等を御記入ください）

--

3 参加可能日時（参加可能な日時を全て丸で囲ってください）

開催日	時間	参加可能日
11月2日（金）	9：00～11：00	
11月9日（金）	9：00～11：00	
11月21日（水）	15：00～17：00	

その他、希望日時がある場合はお知らせください。

希望日①	希望時間①	希望日②	希望時間②

※ テーマや日時によって実施について事務局から調整をお願いする場合がございますので、御了承ください。

審議会委員と職員WTとの意見交換会 開催概要

第1回 11月2日(金)

1	時間・場所	9:00～10:00 市役所会議室 203
	委員名	林委員
	テーマ	つくば市の「未来のために必要な施策」を支えるオープンデータ化
	内容	<p>Society5.0 が描く未来社会では、つくば市が提供する公共サービスでもその多くがデジタル化されていることが前提となる。その社会においては、各サービスで基礎データを電子的、かつ汎用的な形式で取得、加工、統計分析した上で政策決定がなされるとともに、それらのデータは広く市民に提供され、市民発の課題提起や課題解決にも用いられることが予想される。</p> <p>職員ワーキングチームでご検討された「未来のために必要な施策」は、これからのつくば市のまちづくりで取り組む必要のある内容が十分に網羅されていると考える。一方、各施策を横串で検討することで共通的に課題解決できる、あるいは強力な効果が発揮できるテーマもあると考え、その一つとして本テーマを提案する。</p>
開催種別	②15分情報提供、45分委員と直接意見交換	
2	開催日時	10:00～11:00 市役所会議室 203
	委員名	北本委員
	テーマ	つくば市がもつ世界に誇る資産である「研究機関、大学等の知的人材」を産業振興に活かし、にぎわいのあるイノベーション都市をつくる
	内容	<p>つくば市は、日本では一番、世界でも有数の「研究機関、大学等の知的人材」の集積があります。これを活かさない手はありません。知的人材にはイノベーション(生産性の向上、新産業・新サービスの創出等)を起こしたり人を引き付けたりするポテンシャルがありますので、産業振興やにぎわいづくりに活かせると思います。ただし、知的人材がいれば自動的ににぎわいのあるイノベーション都市が生まれるものではありません。</p> <p>具体的にどういった産業に活かせるか、どのような未来像が描けるか、そのためには何が必要か、まず何から始めるべきかなどについて、意見交換をしたいと思います。</p>
開催種別	②15分情報提供、45分委員と直接意見交換	
3	時間・場所	11:00～12:00 市役所会議室 203
	委員名	中嶋(修)委員
	テーマ	まちづくり(開発計画一市街地と周辺地区)、働く世代の子育て支援、教育環境の充実
	内容	<p>若く働く世代は、開発された新興地に住居を求め住んでいくが、ここで考えなければいけないのは、家を建てた世代の子、孫が引き続きこの地に住み続けるかである。荃崎地区では、昭和50年代にいくつかの団地が開発され人口が急増したが、それから40年50年が過ぎると、子世代は新しい街に移り住み現地は一代年寄りの地区に変わっている。そこで構想すること</p>

	<p>は、一気の開発ではなく、順次開発し年次の階段をつけていくことを考える。もう一つの考えは親の世代、子の世代が住み続けられる土地の広さを確保することである。親、子、孫と住み続けられる土地の開発と提供を構想したい。</p> <p>また、つくば市は研究学園都市部を囲んでいる集落が大きな部分を占める。これらの集落地区をつくば市として、どう活性化し一体化していくことが最大の課題である。まずは道路の完備と交通網の整備である。つくバスを工夫発展させていくことを考えたい。</p> <p>次に働く子育て世代の支援である。一つに子どもの医療費を高校生まで無料にする。そして教育環境を充実整備していくことを進める。中心市街地の学校だけでなく周辺地区の学校をきれいにしていくことを進める。</p>
開催種別	③15分情報提供、WT内で意見交換

#### 第2回 11月7日(水)

4	時間・場所	10:00～11:00 市役所防災会議室
	委員名	山海委員
	テーマ	あるべき姿の未来 TSUKUBA2030
	内容	(調整中)
	開催種別	①45分講演、15分委員と直接意見交換

#### 第3回 11月21日(水)

5	時間・場所	9:00～10:00 市役所防災会議室
	委員名	永井委員
	テーマ	市民自治のまちづくり
	内容	市民参加の市政を実現する為の様々なしくみがつくられ、市民が主体的にかかわるまちづくりが推進されようとしています。自分たちのまちは、自分たちでつくる「市民自治のまちづくり」について、行政としてどのように考えるか、話し合ってみたいと思います。
開催種別	②15分情報提供、45分委員と直接意見交換	
6	開催日時	10:00～11:00 市役所防災会議室
	委員名	大島委員
	テーマ	1. 観光計画 2. ワークライフバランス

<p>内容</p>	<p>観光計画は、私は第一次観光基本計画の委員でしたが、その他では、ドイツロマンチック街道を日本で最初に紹介しており、地域観光、広域観光では講演、論文が多く、観光庁の地方都市プロモーションも講演しました。</p> <p>ワークライフバランスでは、私が長年勤めたドイツ企業では、同一労働同一賃金、休暇法の制定、フレックスタイム(労働時間の自己管理)年功序列ではなく専門職でポストは社内公募、職務給など制度がそろっており、介護保険ですら、子だくさんの家庭は優遇されているという状況で、日本でなぜ、いままで話が進まないのか不思議なので、テーマとして提起したいと思います。</p>
<p>開催種別</p>	<p>①45分講演、15分委員と直接意見交換</p>

■開催種別等

- ①45分講演、15分委員と直接意見交換
- ②15分情報提供、45分委員と直接意見交換
- ③15分情報提供、WT内で意見交換



## 市民・高校生・大学生アンケート調査の実施概要

市民の市政や将来像に関する意向等を把握するため、市民（無作為抽出）及び市内の高校に在学する2年次生徒、市内の大学に在学する学生に対し意識調査を実施して、市に対する現状評価や施策要望等を把握し、今後の施策検討の基礎資料とする。

## 1 市民意識調査の実施ポイント

- 施策の重要度・満足度の分析
- 成長戦略・改善戦略の明確化

## 2 高校生・大学生意識調査の実施ポイント

- 全体傾向の過年度比較（若年層意識の変化の把握）
- 移住定住ポテンシャルの考察

表 市民・高校生意識調査に関する各種調査の全体概要（案）

項目	市民意識調査	高校生意識調査	大学生意識調査
目的	未来構想の作成にあたり、市に対する現状評価や施策要望等を把握する。 また、未来構想及び戦略プランにおける施策展開の検討材料とする。	高校生意識調査の目的は、市民意識調査の目的に加え、移住・定住に関するポテンシャルや検討材料とする。	大学生意識調査の目的は、市民意識調査の目的に加え、移住・定住に関するポテンシャルや検討材料とする。
対象	市民・18歳以上人口（無作為抽出）8地区均等配布	高校在学の2年時制（市内9校） ・ 県立竹園高等学校 ・ 県立筑波高等学校 ・ 県立つくば工科高等学校 ・ 県立荃崎高等学校 ・ 県立並木中等教育学校 ・ 県立つくば特別支援学校 ・ 茗溪学園中学校高等学校 ・ つくば秀英高等学校 ・ つくば松実高等学校	大学在学の全学年（市内3校） ・ 筑波大学 ・ 筑波技術大学 ・ 筑波学院大学
方法	郵送配布・郵送回収、希望者はWeb回答も可とする	直接配布・直接回収（各校に依頼）	メーリングリスト、掲示板等で周知・Web回答

項目	市民意識調査	高校生意識調査	大学生意識調査
配布数	2,000	1,350	—
想定回収率	50%	90%	—
期間	平成30年11月	平成30年11月	平成30年11月
回答者属性	性別、年齢、居住地区、就業状況、居住年数	性別、学年、居住地（市内外の別）、居住年数、将来の勤務地の希望、希望職種	
設問案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 属性等</li> <li>・ つくば市の未来像について</li> <li>・ 将来に対する不安について</li> <li>・ 今後力を入れるべき取組について</li> <li>・ 自由記述</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通学・通勤方法の想定</li> <li>・ つくば市で就職したい理由／したくない理由</li> <li>・ 就職先を選ぶ際に最も重視すること</li> <li>・ 将来の居住地の希望</li> <li>・ つくば市に住みたい理由／住みたくない理由</li> <li>・ 居住地を選ぶ際に最も重視すること</li> <li>・ 理想とするまちの姿</li> <li>・ 自由意見</li> </ul>	
分析のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施策の重要度・満足度の分析</li> <li>○ 成長戦略・改善戦略の明確化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全体傾向の過年度比較</li> <li>○ 移住定住ポテンシャルの考察</li> </ul>	



- |        |                            |
|--------|----------------------------|
| 資料 7-2 | つくば市未来構想に関する市民アンケート調査      |
| 資料 7-3 | 高校生アンケート説明チラシ              |
| 資料 7-4 | つくば市未来構想に関する高校生・大学生アンケート調査 |

については、アンケート実施前のため非公開とします。

## 人口の将来推計の実施方針について

## 1 人口推計の考え方

## (1) 推計の方法

## ① コーホート要因法による推計

人口推計の手法は、コーホート変化率法、コーホート要因法、関数あてはめ法などがあるが、国などの機関が行う将来人口推計や国際的にも標準的な方法であるコーホート要因法により、つくば市の将来人口推計を行う。

コーホートとは、同年（同期間）に出生した集団のことで、コーホート要因法とはコーホートごとに出生、死亡、移動による変化率を求め、将来人口を推計する方法である。

出生については、母親の年齢別出生数から5歳階級別女性人口に占める出生数の比率（出生率）を求め、過去の実績値に基づいて将来出生率を設定する。死亡、移動による変化については、過去のコーホート別の人口推移と簡易生命表（生残率）から設定する。

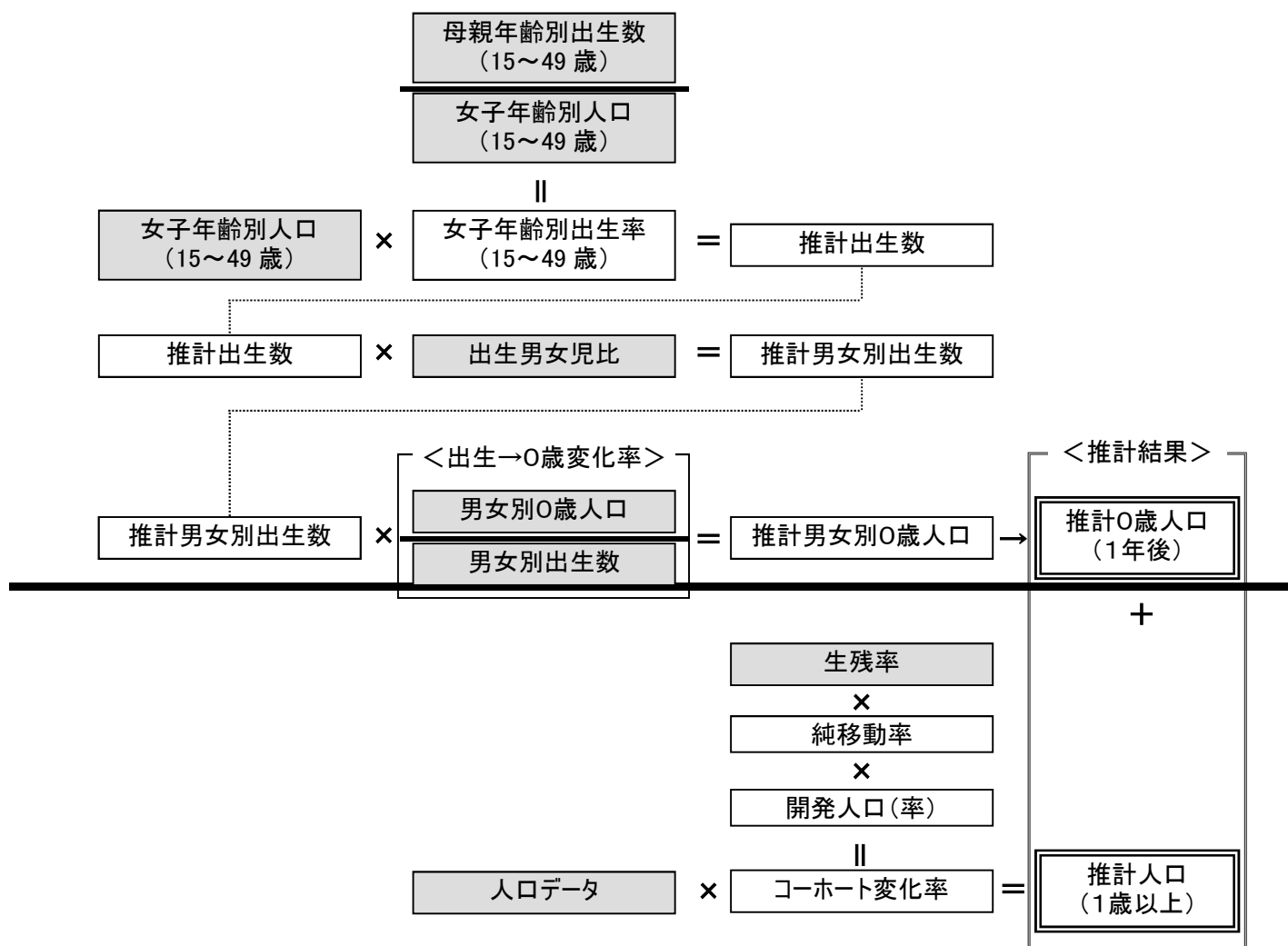


図1 コーホート要因法による推計の流れ

## ② 使用する基礎データ

将来人口の推計に際しては、基本的に以下のデータに基づいて推計を行う。

### ■人口データ

総人口（住民基本台帳、または国勢調査）による各年 10 月 1 日時点のデータを使用し推計する。

### ■生残率データ

生残率は、「1－死亡率」で算出する。死亡率については、厚生労働省が公表している生命表に記載されており、直近のデータは平成 29 年のもの。

### ■出生数データ

出生数は、茨城県の人口動態統計より母の年齢 5 歳別男女別出生数を使用する。

## (2) 推計作業の概要

つくば市の人口推計は、国内及び国際的にも標準的に使われているコーホート要因法を用いるが、コーホート要因法は、過去の人口変動要因等を用いるため、今後、住宅開発等が見込まれる地域の人口推計は、別の方法により推計することで、より実態に近づく人口推計が期待できる。そのため、つくば市の人口推計を以下のとおり、地域で分けて推計する。

### ① 旧 6 町村地区（筑波、大穂、豊里、桜、谷田部、荃崎）※以下の②③地区を除く

・コーホート要因法により推計

### ② TX 沿線開発地区

・それぞれの開発エリアの計画人口に対し、定着率 100%（上位）、70%（中位）、50%（下位）で推計

### ③ 研究学園地区（筑波研究学園都市建設法第 2 条第 3 項で規定）

研究学園地区を、以下の 2 地区に分けて推計

#### (A) 公務員宿舎削減や再開発等の影響を加味した地区を除いた地区

・コーホート要因法により推計

#### (B) 公務員宿舎削減や再開発等の影響を加味した地区

・公務員宿舎削減による人口減及び公務員宿舎跡地開発等を加味した目標人口に対し、人口定着率を 100%（上位）、70%（中位）、50%（下位）で推計

## ※定着率の仮定の考え方

首都圏における民間大規模戸建て住宅団地の開発実態分析と今後の土地再利用方策の検討（平成 16 年度 大月ほか 一般財団法人土地総合研究所）によると、1970 年代に開発された団地では 10 年程度でビルトアップ率が 100%に達しているが、80 年代になると 10 年経っても 80%にならない団地も生じている。90 年代になると現在も増加傾向にあるが、10 年経っても 40%程度の団地も見られる。以上により、上位推計は 100%、中位推計は 70%、下位推計は 50%と仮定している。

## 2 人口推計に用いるデータ候補

人口推計にあたり想定する手法は以下に示す4点がある。

### (1) 国勢調査小地域（オープンデータ）

国勢調査を町丁目に近い単位での集計が可能で、地理空間情報システムをもちいることで学区や区域区分の別で集計可能。5歳階級での推計が基本となる。国勢調査であるため過去との比較（時系列分析）も可能となる。

### (2) 国勢調査基本単位区（確認中）

町丁目よりも細かく、学区や区域区分の別での集計が可能（①よりも精度を高めることが期待できる）。5歳階級での推計が基本となる。

### (3) 国勢調査500mメッシュ（オープンデータ、市販データ取得済み）

500m単位での集計になるものの学区や区域区分での集計にあたっては面積按分等により集計が可能。地域の各境界との整合（町丁目の境界や用途地域の境界、道路・河川などの地形地物）を考慮しないため、区域などでの集計にあたっては按分により精度低下が想定される。

ただし、郊外部の単身高齢世帯の分布や子育て層の分布については①②よりも細かく、多くのバリエーションで分析が可能であるため活用を前提に実施。

### (4) 住民基本台帳（市所有）

町丁目ごとに1歳階級での集計が可能で学区や区域区分の別での集計が可能。転入・転出、死亡・出生の別での集計が可能であるが、データ抽出にあたり他の手法に比べて負担がある。

ここで示した手法のうち、現状分析・将来推計ともに、データ確認が取れれば(2)で実施することを想定する。

データ確認が取れなければ(1)により実施するが、いずれの場合でも、現状分析については、(3)のデータを用いて将来推計等を実施する。